

基本施策

2

ロジスティクスハブ機能の強化



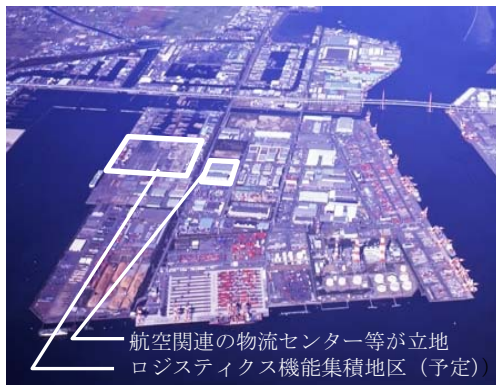
港へのアクセス強化を図りつつ、国際水平分業^{※10}の進展に対応するため港を物流拠点としたロジスティクスハブ機能の強化を図ります。

◆個別施策9 ロジスティクス機能を拡充する

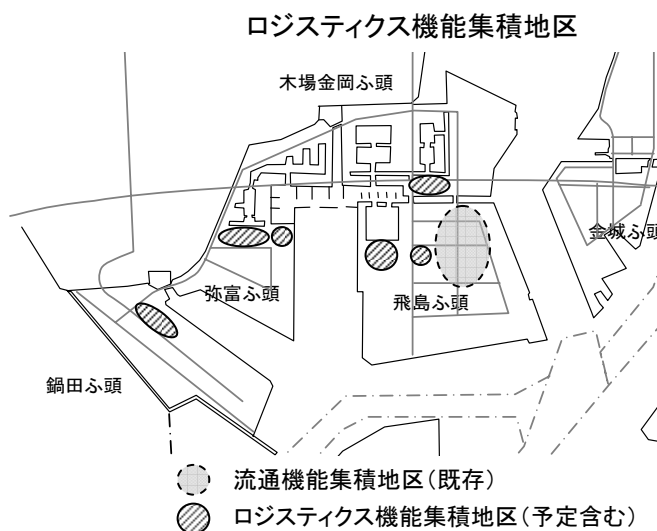
名古屋港は背後圏のものづくり産業の発展や国際水平分業の進展などによって、近年、臨海部に対する物流施設立地ニーズが高まっています。このため、提供可能用地の整備を進め、公共用地の情報を円滑に提供することにより、ロジスティクス機能の集積を図っていきます。

●施策の目標

平成16年度からの新規企業立地面積が68ha(平成20年度値:50ha)となるようロジスティクス機能の集積を目指します。



飛島ふ頭における
ロジスティクス機能集積状況



◆個別施策10 臨海部道路ネットワークを充実する

名古屋港周辺の幹線道路では、西部地区における交通量の増加により、慢性的な交通混雑が発生しています。また、臨港道路^{※11}においては、コンテナターミナルを利用する大型トレーラーの渋滞が顕著となっています。このため、周辺の幹線道路ネットワークの構築や港内における交通混雑の緩和により円滑に貨物輸送ができるようにしていきます。

●施策の目標

西部地区における主要交差点での渋滞緩和を図ります。



飛島ふ頭内臨港道路の混雑状況